

**出題意図：**

資料の読み取りに基づく論理的思考力・表現力の程度を問う。生徒の保健体育への楽しさの違いから運動やスポーツへの主体的、積極的な関わりへの実践力や意欲に差が生じていることについて、将来の保健体育教師として考えるべきことを論理的に整理して記述する能力を問う。

**模範解答**

保健体育の目標である心身の健康の保持増進において運動やスポーツの習慣化は不可欠であり、その習慣化には就学期に運動やスポーツの楽しさや喜びを経験していることが重要と考える。資料によると、保健体育の授業が楽しくないと思う者ほど1週間の総運動時間が短く、卒業後も運動やスポーツをする時間を持ちたいと思わない傾向にある。保健体育の授業で生徒の体力・運動能力を高めて、運動への自己効力感を高めることは重要と考えられる。一方で、体力・運動能力を高めることだけを重視すると、体を動かすことが苦手な子はますます保健体育が楽しくないと感じてしまうであろう。したがって、体力・運動能力の向上を図りながらも生徒全員が「体を動かすことは楽しい」と感じられる授業であることも大切である。私は、保健体育授業において体力・運動能力の個人差があることを理解したうえで、個人の状況に応じた課題設定や支援、評価を大切にしたいと思う。

(398字)

**解答要点：**

**【データ解釈】**

- ・保健体育が楽しい、やや楽しいと思うものは男子で90%以上、女子で80%以上と高い。
- ・保健体育が楽しいと思うものほど1週間の総運動時間は長い。
- ・保健体育が楽しいと思うものほど卒業後も運動する時間を持ちたいと思う。

**【保健体育で重視すべきこと】**

- ・保健体育で何を学修するのか？
  - ・体力・運動能力を高めること
  - ・運動・スポーツの内在的（プレイ欲求）、外材的（ストレス解消、健康増進、交流など）、派生的価値（教育、国際、観戦、経済などの価値）を理解し、運動・スポーツを自身の生活に身近にすること
  - ・仲間と協力・協働する楽しさを知ること
  - ・自身の体と対話し、自分の体のことを考えられるようにすること

↓

生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成

- ・体力・運動能力の高低、保健体育の授業の楽しさが、上記の実現の阻害因子となっている
- ・体力・運動能力の高低と保健体育の授業の楽しさは独立しない保健体育授業は問題である。たとえば、体力・運動能力の高い生徒が活躍し楽しいと感じられる授業、運動課題を成就できないことが強い劣等感を生み出す授業など。
- ・体力・運動能力の向上を図ることは重要 ➡ 自己効力感を高められる（運動・スポーツに対して主体的、積極的に関わられるようになる）
- ・一方で、体力・運動能力が低くても「体を動かすことは楽しい」と感じられる授業であることも大切
- ・体力・運動能力の個人差を把握したうえで課題設定や支援、評価をしていくことが大切
- ・模範解答では触れていないが、「楽しい」「運動時間」「卒業後の運動・スポーツを持ちたいと思う」の性差について言及してもよい

例：保健体育に対する取り組み方の男女差

男女共習授業による女子の萎縮 など